

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成 24 年 11 月 9 日（金）14:00～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：森本次長 他

### <本日の報告事項>

○司会 時間になりましたので、只今より原子力規制庁の定例会見を始めたいと思います。

まず、最初に次長から御報告がございます。

○森本次長 よろしくお願ひいたします。本日はこちらからは 5 点、まず、御報告がござい  
います。

第 1 点ですけれども、本日、午後 4 時 30 分から第 10 回原子力規制委員会を開催いた  
します。ただし、これにつきましては先日もお伝えしたように、この会は核物質の防護  
に関する情報を取り扱いますので、公開とはせず、終了後に議事要旨をホームページで  
公開するという扱いにさせていただきたいと思ひます。

2 番目でございますけれども、先ほど、「発電用軽水型原子炉の新安全基準に関する  
検討チーム」、これの第 3 回会合が終了いたしました。次回は再来週、11 月 21 日 15 時  
からという予定でございます。

3 番目ですけれども、拡散シミュレーションの一部訂正に関してです。これにつつま  
しては、皆様方にも御迷惑をおかけしましたが、九州の 2 つのサイトで誤りがあったこ  
と、これにつきましては申し上げたとおりですけれども、もう、本当に他に誤りがない  
のかどうかというのをゼロベースで点検を行わせております。

時間がかかっていて、申し訳ございませんけれども、急ぎながらも確実に作業をして、  
報告のめどが立ち次第、お知らせをしたいというふうに考えております。

4 番目ですけれども、要人面会についての報告が 1 件ございます。本日、ICRP（国際  
放射線防護委員会）の方々が来日されているのですけれども、その方々が当委員会を訪  
問され、中村委員と面会をいたしました。規制の中身についてということではなくて、  
純粹に表敬ということでございます。来週につきましては、要人の面会については現  
在のところ予定はございません。

5 番目ですけれども、JAEA（独立行政法人日本原子力研究開発機構）の大洗の試験炉  
での水漏れというのがございました。これは 10 月 25 日にあったのとは別でございま  
して、11 月 8 日、すなわち、昨日ですけれども、材料試験炉 JMTR の非管理区域で配管か  
ら水滴の落下を確認したと。これにつきましては、本日（午後）4 時にプレス発表があ  
るということで事前に御報告をしておきたいと思ひます。

以上でございます。

## <質疑応答>

○司会 只今より、御質問をお受けしたいと思います。質問は簡潔にお願いしたいと思います。マイクが届きましたら、所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いします。それでは、タカダさん。

○記者 読売新聞のタカダです。一点だけ、すみません、教えてください。要人面会の件ですけれども、ICRPの来日というのは前から決まっていたのではないかと思うのですが、もう、面会をしたという形での報告のようですけれども、事前に、他省庁では例えば閣僚級、及び三役と会う場合には事前に面会予定というのは出るはずですが、そういったことは、今後、やられたりしないのでしょうか。

○森本次長 もちろん、そういう形でやらさせていただきたいと思います。ちょっと、説明が不足して申し訳ございませんでした。このICRPは環境省の関係で福島に訪問されて、市民との対話というのを進められたということで、そういう形で、多分、公表されていると思います。

当委員会に来られたのは純粋に表敬ということで、特に話はございませんでしたので、それについては事前に説明をしなかったと。純粋に表敬ということなので御連絡しなかったというものでございます。

○記者 そうしますと、表敬以外の何らかの理由がある場合は、事前にこちらとしても発表をなさるといふ形。

○森本次長 それはきちっとやらさせていただきたいと思います。

○記者 表敬についてはもう出さないということになっているのですか。

○森本次長 そういうふうに、私どもの方ではさせていただきたいと考えております。

○記者 分かりました。

○司会 次の方。ニシカワさん。

○記者 毎日新聞のニシカワです。大飯の破碎帯の追加調査の件ですけれども、先日の会合以降、スケジュール的なものとか、進め方とか、何か話が進んだ点はありませんでしょうか。

○森本次長 この間、御説明したような形、島崎委員のブリーフで御説明があったような形での調査を予定しております。その調査をするということで、現在、調整を進めていまして、具体的な今の御質問については、来週の規制委員会の際に島崎委員から改めてこういう形でということで報告をしていただく予定でございます。今のところは、まだ、ちょっと、調整中という状況でございます。

○司会 次の方、いらっしゃいますか。

○記者 シミュレーションマップの訂正の作業状況ですけれども、産経新聞のアマノでございます。シミュレーションマップの訂正の作業状況としては、来週とか、再来週とか、

その辺の目処も全く立っていないという状況ですか。

○森本次長 そうですね。大変、皆様には御迷惑をおかけしてはいますが、とにかくゼロベースで点検しようということで、規制庁から強い指示を出しております。時間がかかってちょっと申し訳ございませんが、今のところ、ちょっと、直ちに目処というのを、今、申し上げられる状況にないのは申し訳ございません。

○記者 昨日の段階では、新たにデータの入力ミスが見つかったというようなお話でしたけれども、これをゼロベースということは、また、そのデータを一つ一つ見直していく、そういうお話ですか。

○森本次長 基本的にはそのとおりです。

○記者 田中委員長が言われていた月内に何かモデリングの原発モデルを使って公表するというのと、この作業というのは別のものなのか、並行してやっているのか、どういう状況ですか。

○森本次長 基本的には別のものがございます。現在の訂正というのは、この間、発表させていただいたものなので、それについて、きちっとしたものを改めて御報告するというので、委員長が言われたのはそれとは別に、この間、申し上げたとおり、自治体が計画を作られる際に例えばヨウ素剤とか、そういうものを、配布の参考になるような、また別途のものを検討しているというもので、一応、別のものがございます。

○記者 そのイメージとしては、前、公表していただいたような方位図があって、点が打たれてという、同じようなものとしてイメージしてよろしいでしょうか。

○森本次長 それは、多分、違うと思いますが、それも含めて、改めて御報告したいと思います。

○記者 そうすると、その2つのマップが出るというところで、多分、受け手側としては混乱すると思うのですが、その意味づけというのはどういう違いがあるのですか。

○森本次長 恐縮ですが、それも含めて、改めてきちっと御説明したいと。また、説明する機会も作りたと思っています。今、ここで、推測で御説明しても、かえって混乱すると思いますので、避けたいと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 次の方、いらっしゃいますか。

○記者 北海道新聞社のソガメです。一点、教えてください。防災計画ですけれども、以前、委員長が、先週だったかと思うのですが、どこか、一つ、モデルを選んで、そこをひな形にしたいと。その作業状況やスケジュールが見えているものがあれば教えてください。

○森本次長 その点も、今、進めています。相手のある話ですので、今、防災課の方で少し調整をしています。目処が立ち次第、また、御報告したいというふうに思います。

○記者 来週の委員会ぐらいで出せそうですか。

○森本次長 それも含めて、今、ちょっと、やっていたいているところです。

○記者 分かりました。

○司会 ニイさん。

○記者 共同通信のニイです。さっきの質問と関連して、そのひな形、防災計画のひな形という話があって、また、別に OSCAR を使ったシミュレーションもどこかの地点の代表点にすると。その2つというのはリンクするのですか。

○森本次長 多分、リンクはするとか、まず、自治体が計画を作っていたに当たって、今、あるものは取りあえず指針しかありません。マニュアルももうすぐできませぬけれども、それしかない。

並行して、OIL（運用上の介入レベルとしての環境における計測可能な判断基準）と、この検討も進めますけれども、それで十分では必ずしもなかろうということで、例えばそういうモデルのようなものを作るそのプロセスの中で、こういう点が課題だということが分かってくると。委員長が言われた「キャッチボール」ということで進められるというふうなものがモデルだと思います。

○記者 決まっていなかったら、それでいいのですけれども、ずばり言うと、そのひな形を例えば新潟県ですと、それに並行して OSCAR もまず新潟県ですと言えば、その2つが揃うと、ほかの自治体がイメージしやすいと思うのですけれども、そういうお考えは、というか、プランがあるのですか。

○森本次長 それも一つの考え方だと思いますが、そこもまだ決まっておられません。

○記者 もう一点が、昨日のミスが分かったシミュレーションですけれども、別に総点検をしているという意味も、それは承知していますし、まだ、調べている最中というのは分るのですけれども、その玄海と川内の炉について、もう一回、チェックをしていた中で、今回、ミスが見つかったのですね。決して責めるつもりはないのですが、川内か玄海、そのいずれかにミスがあったのか、それとも、両方あったのかというところはどうなのでしょう。

○森本次長 実は、実際にどの程度のミスがあったかも、私ども、実は報告をきちっと受けていませんで、要すれば、その体制といいますか、JNES（独立行政法人原子力安全基盤機構）のいわゆる検査体制に、我々から見て少し不安があるので、それで徹底的にやれという指示を出したという主旨でございまして、その点については、ちょっと、詳細は承知しておりません。

○記者 こちらも取材しているとき、JNES の主体性云々ではなくて、欠測データ云々の扱いというふうに取材では聞いているのですけれども、それと JNES の姿勢はちょっとつながらないと思うのです。

○森本次長 と申しますか、そもそも、九州の事案の場合には入力という非常にベーシックな段階でミスがあると。その時点で、もとより指示は出したわけですけれども、その

点について JNES にどういう体制でやっているかというのを聞くと、まさにその検証を彼らにもやらせているのですが、若干、我々から見て不安もあるものですから、この機会といたら申し訳ありません、この際、やはり、ゼロベースできちっとやれと。一言で申し上げれば、規制庁として厳しく指示したという形のものでございます。

○記者 その不安になったというきっかけは、例の九電さんのミスを見抜けなかったのに加えて、更に何かあったという理解でいいですか。

○森本次長 その点、そういうことではなくて、基本的には九電のことは見抜けなかったということですがけれども、その見抜けないことについて、どれだけの体制があるのかということについてまさに検討しているわけですがけれども、まだ、十分な考えがあるようにも見えなかったもので、そこをしっかりとやれという指示をしたものです。

○記者 ミスはまだあったとは断定できていないのですか。

○森本次長 というふうに考えています。

○記者 最後に一点だけ。JMTR、もうすぐ発表ということですがけれども、深刻かどうかだけ、ちょっと、見極めたいのですけれども、その点はいかがでしょうか。

○森本次長 深刻ではないとも、私どもは言えないのですが、私どもが聞いている範囲では、12cc 程度の漏れがあって、それを調べると微量だけれども、放射性があったと。場所が非管理区域なので、これは法令報告である、そういう性格のものだということで理解しています。

○記者 まだ、極めて濃いであるとか、核種がどうかというのは入ってきていないですか。

○森本次長 その辺は（午後）4時の段階でまた報告をさせていただきたいと思います。

○記者 分かりました。

○司会 次の方。

○記者 読売新聞のフナコシといいます。大飯の破砕帯についてですがけれども、先ほど、掘削のスケジュールについて関電と調整中というお話でしたけれども、これまでの関電の主張だと、トレンチの掘れる場所はない、適地はないと主張をしていたのですけれども、掘削が、今のところは特にその調整の中で掘削は難しそうだと、もしくは、特に、既往トレンチを南側は掘れませんか、そういうネガティブな話は出ていないのですか。

○森本次長 まさにまだ調整中ですが、むしろ積極的に、作業、何ができるか、何ができないか、積極的に検討していただいていると理解しています。

○記者 今のところ、できそうだという見通し。

○森本次長 というふうに考えています。

○記者 分かりました。先日の有識者会合で、その結論について白黒まではっきりするのか、どうするのかということで、島崎先生と渡邊先生の間でちょっと議論が対立していたようですけれども、元々、田中委員長もグレーになっても規制委として何か判断をす

ると言われていて、結局、その有識者の評価会合ではグレーで上げるのが、それとも、島崎先生が言っている白黒ではっきりするのか、どこまでを結論とするというような考えですか。

- 森本次長 そこは、ちょっと、私がいろいろ忖度して言うものではありませんけれども、この間、島崎委員がブリーフィングされたように、例えば地滑りと断層、これについてはこういう点を調べれば、ある程度、判明するというめどを持って、調査のイメージです。

最初は一番北側のトレンチ、それから、それを更に引っぱっていく。それから、併せて南側と。こういう段階を踏んだ調査の考えを持っておられますので、そういう意味でいうと、その段階、段階でいわゆるその蓋然性というものを報告されるのだというように認識しております。

- 記者 仮定の話になってしまいますけれども、例えば南側でも分からないとか、立たなくなるときというのは、例えばリミットを設けるとか、そういうふうにはあるのでしょうか。

- 森本次長 そこは、ちょっと、今の時点では、その南側の調査もどれぐらいの期間がかかってどうなのかということも含めて検討する必要があると思いますので、ちょっと、申し上げられないと思います。

- 司会 次の方。

- 記者 すみません、OurPlanetTV のシライシと申します。原子力規制委員会ができましたから初めて情報公開請求したものが返ってきたのですけれども、不開示の決定でして、その内容が規制庁の職員名簿だったのですけれども、ここは危機管理を扱うところで、不開示の理由が「作成も取得もしておらず、保有してない」というような内容ですけれども、御担当の方に聞くと、まだ作成していないというような回答だったので、森本さんは、この件について御見解をちょっと聞かせていただきたいのです。

- 森本次長 詳細は把握しておりませんが、ないものは出せないという状態なのだろうと認識しております。その上で、かつ、名簿ということであれば、その上の判断があろうかと思えます。

- 記者 実は、今、私自身が手元に名簿を持っておりまして、明らかに規制委員会の名簿なのです。この間、開示までには何度かやり取りをさせていただいて、いろいろ、こちらの方からお聞きして、そして、最終的に不開示決定がこのように作成していないということですが、今、私が手元に持っているもの自体はどう考えても名簿なのですが、こちら辺というのは、今まで情報の公開、透明性というのは、一つ、この委員会にとって大きなことだったと思うのです。

こう言うは何ですけれども、たかが名簿というか、準備委員会のときには開示請求してきちんと出していたいたものですから、そういう意味では、どうして新しいこち

らの委員会になって出ないのかなというところが疑問だったのですけれども、この点、ちょっと、御見解を聞かせていただきたいのです。

○森本次長 まず、お持ちになっているものが何か、私は知りません。したがって、それについてはコメントができません。

○司会 よろしいですか。

○記者 今、ちょっと、見ていただいてもよろしいでしょうか。

○司会 ちょっと、会見なので、余り個別のことはまた会見が終わってからとかですね。担当が。

○記者 分かりました。でも、いずれにしても、今の森本さんの見解としては、この不開示決定に対しては正当であると思っていらっしゃるということでもよろしいかどうか、そこだけ、ちょっと、確認させてください。

○森本次長 そういう形で決裁を起こしていますので、正当だと考えております。

○司会 次の方、いらっしゃいますか。

○記者 すみません、東京新聞のカトウです。断層調査、大飯以外のところをいつやるとか、そういう話はどうなっていますでしょうか。

○森本次長 この間も少し申し上げましたが、並行して進められるものは進めたいと考えていまして、今、事業者のトレンチの状況を把握して、並行して検討すべく、その検討のメンバーも含めて、今、検討していただいているところでございます。

○記者 次に行くとしたら、いつごろになりそうかというめどはありますでしょうか。

○森本次長 それを、今、島崎委員に検討していただいております。早々にはここで御報告できると思います。

○司会 次の方は。一番後ろの席。

○記者 NHK のクツカケです。ちょっと、確認までに。シミュレーションの関係の例の JNES から 2 週間後に報告を受けて、再発防止策を取りまとめるというのは、今回、また、ゼロベースから見直すということで、それに伴って、ずっと後ろにずれていくということになるのでしょうか。

○森本次長 大変、申し訳ないのですけれども、あの子の、言わば九州の事案があったということで、その 2 週間というのは少し後ろに延びると考えています。いずれにしろ、きちっとしたものを報告させるということが大事だと思っております。その再発防止策も含めて、きちっと併せて報告させたいと思っております。

○記者 全ての原発のデータについて、もう一回、精査したものと再発防止策を一緒に発表されるということになるのですか。

○森本次長 そういうふうに。全く一緒のタイミングかどうかはあれですけれども、いずれにしろ、そういう形で考えています。2 週間というのはちょっと延ばさせていただき

たいというふうに考えています。

○司会 次の方、いらっしゃいますか。

○記者 東京新聞のオオムラです。以前に拡散シミュレーションの訂正での会見があったときに、田中委員長の方から自ら検証できる体制、検証というのか、自らデータをとるのか、ちょっと、その辺、分かりませんが、そういう体制について早急に検討を始めろという話があったかと思うのですが、これについて検討の作業に入っているのかどうか、ちょっと、その辺を伺いたいのです。

○森本次長 恐縮です、それは検討に入っております。つまり、いわゆる原因究明と検証、再発防止策は JNES だけの問題だけではなくて、規制庁自身の問題でもありますので、その規制庁自身の言わば体質ですね、今、おっしゃった、いわゆるデータを検証できる体制、それも併せて、今、検討体制を作ってやっております。

○記者 それは分かりましたけれども、今回はまた 16 サイト全部、見直すといった場合に、嚴重注意してやれと言っている対象が JNES であって、規制庁そのものがやるわけではないですね。見直し自体は。

○森本次長 見直しそのものは JNES です。

○記者 そうすると、また、話としてはもとへ戻って、今回は事業者ではないにせよ、JNES という半分身内みたいなどころでしょうけれども、結局、また、規制庁そのものがそれをチェックをできるという能力としては、また疑問符がついてしまう気がするのですが、これはどうでしょうか。

○森本次長 実は、その点は私どもも問題意識を持っておりまして、いわゆる JNES のチェック作業そのものに規制庁の職員自身が、全部という意味ではありませんけれども、部分、部分に関わって、そして、その体制、そのことは、結局、規制庁自身の検証体制につながるものですから、そういう形でやろうと考えております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 次の方は。

○記者 河北新報のイシカワです。断層の件で、先ほど、大飯以外も並行してできるものはやっていくというお話でしたけれども、これは具体的にどこを指しているのですか。

○森本次長 実は、その洗い出しをしております、言わば事業者のトレンチの掘る作業ですね、実際の土木作業ですが、その進捗状況を、今、チェックして、どこから進めるかも含めて、今、検討をしております。

○記者 それはいつぐらいに目処が立ちますか。

○森本次長 もちろん、全てというわけではありませんが、まず、次に取りかかるものについては早々にも発表されることになろうかと思えます。



- 司会 次の方、いらっしゃいますか。その後ろの方。
- 記者 西日本新聞のナガタです。シミュレーションで確認ですけれども、昨日の取材では、昨日、公表しなかったのは欠測値の入力方法にミスがあったということで公表しないと聞いたのですけれども、今、次長はまだミスがあったとは断定してないと言っていたのですけれども、これどちらですか。
- 森本次長 すみません、私がそこを認識していないということでございまして、先ほど、申し上げましたように不安があるという状態なものですから、公表していないという形のもので。その不安の中、という形でございます。すみません。
- 記者 ミスがないとは断定はしていないわけですね。
- 森本次長 そうですね。それも含めて、我々としては非常に不安、余り不安と言い過ぎても恐縮でございますが、JNES の体制も含めて、我々が、言わば職員が JNES と一緒にチェックするような形もとりながらやっていきたいというふうに考えています。
- 司会 次の方。
- 記者 すみません、Japan Times のナガタと申します。シミュレーションのことですけれども、次にゼロベースで総点検して出てきたものが正しいという、いわゆるその品質担保みたいなことはどのようにして担保しようとお考えですか。
- 森本次長 まさにそれを、今、進めたいというふうに考えております。
- 記者 例えば、何か第三者機関とか外部の人がチェックするとか、そういったことも考えていらっしゃるのですか。
- 森本次長 今はそこまでは考えておりません。
- 記者 今は規制庁の職員と一緒に、JNES と一緒にチェックしながら確実にやっというふうなことだと。
- 森本次長 はい。
- 記者 ありがとうございます。
- 司会 次の方、いらっしゃいますか。ないようでしたら、以上で今日の会見を終わりたいと思います。どうも、御苦労さまでした。

—了—